

## 宮城県石巻市多機能型事業所

## 【自立訓練（生活訓練）/就労継続支援B型】あっぷるぷらす

- プログラム概要 : あっぷるぷらすで就労特化型を学ぶ、東日本大震災の震災学習  
 実習先 : 多機能型事業所 あっぷるぷらす  
 実習先情報 : 石巻市の障がい者向けサービス&支援組織  
 参加人数 : 2名(1班)  
 学部学科 : 教育学科、幼児教育学科  
 実習期間 : 令和6年8月25日～8月30日  
 本学担当教員 : 武田憲明(教育学科)

毎日10名程度の利用者が集まるあっぷるぷらす。職員さんが送迎をするため、朝から夕方まで一緒に過ごすのが特徴的だ。利用者さんと一緒に活動し、生活を共にすることによって見えてきた信頼感。ここでは自分が学びになったことを掲載する。

## 紙コップロケットを作ろう！



↑作り方を説明中！  
みなさん真剣に  
聞いてくれました！

最終日に時間をもらい紙コップロケットの作成とゲームを行った。紙コップに好きな絵を描き自分だけのオリジナルロケットを作成！

個人作業中は黙々と絵を描き続け、個性あふれる作品が出来上がった。

←マリオをモチーフにした  
世界で一つだけのオリジナルロケット 🚀

## みんなで遊ぼう！！

作った後はみんなでゲームを行った。紙コップロケットを投げて点数を競い合い、場の雰囲気は大盛り上がりだった。点数表や点数設定もオリジナルで作成し、果物ゾーンや野菜ゾーン、朝食ゾーンなどで会場を盛り上げた。



↑高い点数を狙い、丁寧に投げる利用者さん！

---

## 楽しい時間はみんなで共有！



↑点数計算のために厳密なジャッジ!!

みなさんが抱えている問題は決して軽いものとはいえないものの、施設内で見せる笑顔には周囲を元気づけるパワーに結びついていたと感じる。できた！や楽しい！と笑顔で言われると私たちも嬉しくなり頬が緩む場面は何度も経験することができた。

---

「あっぷるぷらす」でのFSを通して、障がいのある方との接触の仕方について学ぶことが出来ました。言葉で伝わらないなら紙に文字起こしてあげる、実際に見せて覚えてもらうなど、スタッフのみなさんの細やかな気配りがたくさん感じられました。利用者さんが毎日元気に通えるのもスタッフのみなさんのおかげだと思っています。私たちにも丁寧に接してくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を将来役に立てられるように頑張ろうと思えたFSでした。

## 宮城県石巻市多機能型事業所

## 【自立訓練（生活訓練）/就労継続支援B型】あつぷるぷらす

- プログラム概要 : 震災遺構である門脇小学校や伝承交流施設MEET門脇の訪問とあつぷるぷらすという施設に訪問して障がい者の就労継続支援B型事業所での活動を体験してきました。
- 実習先 : 多機能型事業所あつぷるぷらす
- 実習先情報 : 石巻市の障がい者向けサービス&支援組織
- 参加人数 : 1名(2班)
- 学部学科 : グローバルコミュニケーション学科
- 実習期間 : 令和6年9月1日～9月6日
- 本学担当教員 : 武田憲明先生

## ○はじめに

私は、震災関連の施設と石巻市にある多機能型事業所〔自立訓練(生活訓練)/就労継続支援B型〕あつぷるぷらすに訪問しました。このプログラムを選んだ理由は私の姉が障がいを持っており、姉が同じようなところで働いているのでどのような施設なのか、そしてどう関わればいいのかを学び、また震災のことについても深く知りたいと思い参加しました。

## ○実習内容

初日には震災遺構施設であるMEET門脇と門脇小学校に訪問し震災の恐ろしさを体感しました。

残りの5日間はあつぷるぷらすの施設に訪問し、施設の利用者さん達と一緒に活動し、就労継続支援B型事業所ではどのようなことを行っているのかを学びました。

## ○経験したこと、学んだこと、など

MEET門脇と門脇小学校を訪問して地震が引き起こす津波の恐ろしさを実感し、甘くみではいけないと改めて思いました。残された遺族のメッセージや展示品などから、震災のことについてより考えさせられました。身近で大災害が起こったときに、私が今まで習ってきた避難訓練だと為にならないのではないかと感じました。他人ごとには思わず、「逃げる、自分の身は自分で守ること」を頭に入れておこうと思います。





## ○経験したこと、学んだこと

あつぷるぷらすではアート活動、SST(ソーシャルスキルトレーニング)、調理実習の活動を行いました。初日では施設の一日の流れを体験し、利用者の方が一人でも生活が出来るように日常生活の中で必要な知識や礼法をスタッフが教えていると学びました。アート活動では一人一人の個性が活かされた作品制作が行われていることに感動しました。SSTとは大体どのようなことをするのか把握していましたが、スタッフが利用者さん達の日常生活の動きを見て、出来ないことを把握し今週はこれを教えるなどと計画を立てて活動していることを知りました。普段の作業中に起こる些細なことをスタッフは見逃さず今の行動、発言は良いか悪いかを理解出来るように教えているところが凄いと感じました。また、マナーなど私たちがおろそかにしてしまう細かい部分まで徹底する場面に私も気をつけなきゃいけないと学ばされる部分がありました。調理実習では刃物やその他の調理器具、火の取り扱い方などみんな理解して器用に取り扱っている姿に衝撃を受けました。放課後等デイサービス施設の利用者さんはハキハキしている子がとても多く、楽しみながら考え社会性を身に着ける活動をしていると学びました。

5日間であつぷるぷらすのスタッフさん達の「この子たちを社会に出させたい！」という強い気持ちがとても伝わりました。



## ○提案したこと、発信したこと、等

最終日にはカードゲームと紙コップ射的を行いました。

カードは利用者さん達に指定した絵を書いてもらい、紙コップ射的は事前に作成したものに一人一つオリジナルにデザインしてもらいました。ルール説明やこれからやることをわかりやすく説明することにてこずりましたが、みなさん楽しそうに活動してくれたので良かった



## ○今後の展開、今後の学び、まとめ

今回このプログラムを通して震災のことについて改めて考えさせられ、障がい者とどう関わればいいのか学ぶことが出来ました。私は障がいを持つ姉と上手にコミュニケーションをとることが出来ず、いつも頭を悩ませていましたが、今回のプログラムのおかげで帰ってきてからは上手くコミュニケーションをとることができ沢山話しかけてきてくれるようになりました。また、母の代わりに私がマナーや行動の良否を教える回数が多くなりました。今後機会があれば障がい者と関わるボランティアにも参加していきたいと思っています。そして将来の職業選択でも取り入れたいと思いました。彼らから学ぶものはとても多く、沢山刺激を受けれる良い経験が出来ました。